

令和5年度

英国派遣交流事業報告書



2023年11月16日(木)~11月24日(金)




北谷町教育委員会





CONTENTS


 教育長あいさつ P1

 令和5年度英国派遣交流事業経過報告 P3

 令和5年度北谷町英国派遣交流事業実施要項等 P4


 第23回北谷町中学生英語スピーチコンテスト発表文 P10


 令和5年度北谷町英国派遣交流及び視察研修について P18

 英国派遣団報告書

生徒	北谷中学校	3年	宮里 柚杏	P21
〃	北谷中学校	3年	大城 海慳	P22
〃	北谷中学校	3年	鈴木 琉心	P24
〃	北谷中学校	3年	神山 夏寧	P25
〃	北谷中学校	3年	長嶺 心乃	P27
〃	桑江中学校	3年	仲地 輝	P29
〃	桑江中学校	3年	奥原 拓大	P30
〃	桑江中学校	3年	木村 暖乃	P31
引率	北谷中学校	教諭	町田 宗之	P32
引率	桑江中学校	教諭	岸本 亮子	P37

 英国派遣交流写真集  P39

 令和5年度英語スピーチ・カンバセーションコンテスト P47

 令和5年度英国訪問団受入れ【交流の様子】 P48



教育長あいさつ

北谷町教育委員会

教育長 原田 利明

北谷町英国派遣交流事業は、2001年から始まり、交流団をイギリス西部のディーン・マグナ・スクールへ派遣し、授業参加やホームステイを通して交流を深めること、今年度で20回目を迎えました。

今年度は、コロナ禍が明け4年ぶりの派遣となりましたが、伝統的なイギリスの建造物や環境のすばらしさ、ホームステイでの温かい受け入れ、ディーン・マグナ・スクールの生徒が熱心に授業を受ける態度に感銘を受け、失敗を恐れず積極的に行動することや、自分の意見を英語で伝えることの難しさと大切さ、更なる英語学習に対する意欲や海外留学への決意、将来は英語を使って人の役に立つ仕事に就きたいと夢を語る生徒など、多くの感動と新たな夢や希望が芽生えたことが伺えました。

北谷町教育委員会では、このような国際交流事業を通して、異文化理解や相互理解を促進し、異なる文化を持つ人々と協調して生きる資質や能力を育むことを目指しています。そのため、英国へ派遣する生徒の選考については、これからの国際社会を担う児童生徒にとって国際共通語としての英語能力は重要な基礎的能力であることから、「中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテスト」を開催しています。また、令和元年度からは学校推薦枠を設け、派遣生徒数を増員することで、町立中学生全体の英語力の向上を図っています。

さらに、小学校段階からの国際理解教育を推進し、コミュニケーション手段としての実践的英語力の育成に努め、今後もより一層充実した国際交流の在り方と英語教育を推進し、国際化に対応する人材の育成に励んでいく所存です。

結びに、今年度も北谷町の派遣団を温かく迎えてくださったディーン・マグナ・スクールの校長先生はじめ、ご尽力いただいた先生方、生徒及び保護者の皆様に、心から感謝申し上げます、私のあいさつといたします。

Message from Superintendent

Chatan Board of Education, Toshiaki Harada

This year marks the 20th anniversary of this UK Delegation Program since it was launched in 2001, sending delegation team to Dene Magna School to deepen the international understanding through school visits and home-stay introducing their own culture.

This was the first delegation exchange after four years since the Corona Disaster, the students were overwhelmed by England's historical buildings, natural environment, and warm welcomes from the host families, also impressed by the well-mannered attitude and diligence of Dene Magna's students in classes. It was clear that many impressions and new dreams and hopes had grown within them, such as desire to act positively without fear of failure, the difficulty and importance of telling their opinions in English, their desire to learn English further, their determination to study abroad and to use English to help others in the future.

Through these international exchange programmes, the Chatan Town Board of Education aims to promote cross-cultural and mutual understanding, and to develop the qualities and abilities to live in harmony with people from different cultures. To this end, the Junior High School English Speech and Conversation Contest is held to select students to be sent to the UK, as English language skills as a lingua franca are an important basic ability for students who will be responsible for the international society of the future. In addition, since 2019, a school recommendation quota has been established and the number of students dispatched has been increased in order to improve the English language skills as a whole. In conclusion, I would like to express my heartfelt appreciation to Dene Magna Headmaster, Mr. Stephen Brady, all the teachers, students, and parents of Dene Magna School for their support and the warm welcome. I look forward to ever growing friendship for many more years to come.

令和5年度 英国派遣交流事業経過報告

1 学校長推薦による派遣者の選出

英作文提出、面接、校内オーディション等により各中学校男女各1名を決定

2 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストによる派遣者の選出

7月19日(水) 出場者全員でカンバセーションパートに関するルール確認と練習

8月31日(木) 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト実施
上位4名を英国派遣生として内定

3 英国派遣までの取り組み

9月27日(水) 英国派遣事前学習会①

- ・今後の日程調整
- ・訪問中の日程に関する説明

10月4日(水) 英国派遣事前学習会②

- ・ホストファミリーへの自己紹介文作成
- ・現地での過ごし方、英会話の練習

10月17日(火) 英国派遣保護者説明会

- ・英国訪問の心得等の説明会(生徒・保護者)
- ・訪問中の日程に関する説明

10月18日(水) 英国派遣事前学習会③

- ・北谷町の歴史、インディアンオーク号についての研修

10月25日(水) 英国派遣事前学習会④

- ・現地での学校・文化紹介発表準備

11月1日(水) 英国派遣事前学習会⑤

- ・現地での学校・文化紹介発表準備

11月8日(水) **出発式：町役場1階 レセプションホール**

- ・最終確認(訪問スケジュール、持ち物、保険の確認等)

11月16日(木) ○出発 那覇空港 → 羽田空港 (1泊)

11月17日(金) ○出発 羽田空港 → ヒースロー空港

英国ディーンマグナススクールにて交流・ホームステイ

11月24日(金) ○帰沖 那覇空港

12月22日(金) **英国派遣交流報告会：町役場1階 レセプションホール**

令和5年度北谷町英国派遣交流事業実施要項

令和5年度北谷町英国派遣交流事業を次のとおり実施する。

1 目的

次代を担う中学生を英国に派遣し、異文化及び異言語を体験することで、国際感覚を養うとともに国際理解を深めさせ、もって将来、本町の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

2 北谷町英国派遣交流事業の概要

(1) 事前学習

派遣前に5回程度事前研修を行い、派遣生に派遣事業の意義を十分に理解させ、学習意欲を高めるとともに、派遣者として必要な教養と国際的な視野を培い、さらに派遣者相互の人間関係の円滑化を図る。

(2) 現地学習

現地の学校での授業への参加、ホームステイ、史跡の見学等を通して、現地の教育、文化、歴史等の学習を行うとともに、現地の学校の生徒との交流を通して見聞を広める。

(3) 事後学習

派遣後3回程度、事後研修にて現地学習の報告を行い、派遣終了後も体験を活かして地域や学校において活発に活動する。

3 派遣期間

令和5年11月16日（木）～11月24日（金）

4 派遣事業の日程

後日「令和5年度北谷町英国派遣交流事業日程表」にて示す。

5 派遣場所

派遣先は、英国のディーン・マグナ・スクール及びその近郊とする。

6 派遣者の資格要件

派遣者は、次の資格要件を全て満たすこと。

- (1) 北谷町立中学校に在学している者
- (2) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (3) 通算1年以上又は継続して6箇月以上、英語圏生活経験者（就学前の期間を除く。）及びこれに類似する経験を有しない者
- (4) 北谷町の歴史及び文化を学び、それを海外の人々に伝えようとする主体的な意欲を持っている者
- (5) 町が実施する国際交流事業への参加又は協力等により、本町の発展に寄与する意欲がある者
- (6) 心身ともに健康で、海外における所定の期間の学習及び生活に適応できる者
- (7) 教育委員会が実施するハワイ短期留学派遣事業又は他市町村のホームステイ派遣事業等に参加したことのない者

(8) 在学する学校長の推薦及び保護者の承認が得られる者

7 派遣人員等

北谷町立中学校に在学している生徒 8名

8 選考及び派遣者の決定

- (1) 派遣する生徒8名のうち4名は、各学校で開催した選考会により各学校長が推薦する男子1名、女子1名とする。生徒への周知及び作文・面接等による選考会は各学校で実施する。
- (2) 派遣する生徒8名のうち4名は、令和5年8月31日(木)に行われる北谷町中学生英語スピーチ・カンパセッションコンテストにより決定する。コンテスト出場にあたっては各学校で選考会を実施し、4～5名の学校代表者を選出する。

9 引率者

- (1) 引率者は、派遣者が在学している学校の教諭2名で、学校長の推薦による者とする。
- (2) 引率者の役割は、派遣生徒の学習等の補助及び健康管理とする。
- (3) 旅程中の生徒の危機管理責任者として、急な体調不良者への対応を現地交流校担当者と連携して行う。
- (4) ディーン・マグナ・スクールにおける授業参観を通して、教材、教具（ICT機器等を含む）、生徒の反応や変容の様子、指導形態等について観察するとともに、現地担当者等と積極的に交流することにより英国の教育方法を学び、その成果について報告書を作成する。
- (5) 英国訪問団受入時の交流について、現地担当者と交流方法や内容について意見交換する等の調整を行う。
- (6) 帰国後に、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取組に資すること。

10 経費の支給等

派遣者として決定された者の経費（航空賃、車賃、宿泊費、日当（引率者のみ）、支度料、その他教育長が必要と認める経費）は町が支給するものとし、支払方法は、北谷町会計規則(平成5年北谷町規則第19号)、北谷町職員の旅費に関する条例（平成4年北谷町条例第1号）及び国家公務員等の旅費に関する法律（昭和25年法律第114号）の定めによるところによる。なお、教育長が必要と認めたときは、町は派遣者等への支給に代えて、旅行社等へ直接支払うことができる。

11 派遣生徒の決定取消

派遣の決定後、派遣することが不相当と認められる事由があった場合は、その生徒の派遣を取り消すことがある。

12 派遣交流事業の報告

派遣交流事業終了後、派遣者は、派遣報告書を教育長に提出するものとし、英国派遣交流報告会にて発表する。

第 23 回北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト開催要項

1 趣旨

今後の国際社会に対応するために、将来を担う児童生徒が積極的に世界の人々と交流ができる資質や能力の基礎を培うことが求められる。本町の人材育成の視点から、中学生の英語スピーチ等コンテストを開催し、町内中学生全体の英語力のアップと実践的コミュニケーション能力の向上を図る。

2 主催 北谷町教育委員会

3 日時 令和 5 年 8 月 3 1 日(木) 午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分
※受付午後 1 時 30 分～

4 場所 ちゃたんニライセンター カナイホール

5 出場者 北谷町立各中学校の代表者 4～5 人
※学校代表については各校で選考会を開催し選出する。
※原則として、男女比を均等に選出することが望ましい。

6 出場資格

- ・北谷町立中学校 1～3 学年の生徒。
- ・国際交流に積極的な生徒で、北谷町が実施するハワイ短期留学派遣事業及び本英国派遣事業へ未参加の者
- ・北谷町が実施するハワイ短期留学派遣事業及び本事業へ未参加の者

〈留意点〉

家庭で英語を母国語として使用している生徒や、英語圏生活経験者及びこれに類似する生徒については大会の趣旨から対象としない。就学児年齢での（7 歳以上）海外生活経験者、またはいかなる期間においても英語を主として授業を行なう学校へ通学していた生徒は対象外となる。

7 参加者

中学校	北谷中	職員：5 人(管理職 1 人含む) 応援生徒：40 人程度
	桑江中	職員：5 人(管理職 1 人含む) 応援生徒：40 人程度
町教育委員会	教育委員(3 人)、教育長職務代理者、教育部長	
町長部局	町議会議員	
町内各団体	PTA 関係、自治会、町子連	
審査員	5 人	
一般町民	出場者の家族、一般町民	

8 スピーチ及びカンバセーションについて

(1) スピーチについて

- ① 文章内容：学校生活や将来の夢などに関する中学生らしいテーマで、中学生が使用する単語や文法、文章を使用する。
- ② 発表時間：2 分 30 秒以上 3 分以内

(2) カンバセーションについて

- ① 内容：学校生活や日常的な活動に関する 1 つのトピックに基づき、英語で質問や会話をする。トピックは事前（約 3 週間前）に学校を通して通知する。

② 方法： 司会（大人）を中心に、出場生徒同一の席でトピックの内容について英語で会話を行う。生徒は上記に関する簡単で日常的な英会話と積極的な発言が求められる。

③ 時間： 30 分以内

9 審査基準

(1) スピーチ審査基準 (40 点満点)

- ①【内容】文の構成（導入、本文、結び）、独創性
- ②【用語選択・言い回し】文法、発音、語彙
- ③【話し方】明瞭さ、声の大きさ、強弱、身振り手振り、表情
- ④【暗記】

(2) カンバセーション審査基準 (60 点満点)

- ①【内容】自分なりの考え、意見
- ②【構成(質問・返答)】内容に沿った質問・返答
- ③【発音】
- ④【語彙】言い回し、表現
- ⑤【積極性】話す意欲
- ⑥【態度】聞き方、話し方のマナー、表情

※スピーチとカンバセーションの評価比はスピーチ 4 : カンバセーション 6 とする。

- 1 0 審査 英語に関する学識者 5 人により協議して審査する。
- 1 1 表彰 最優秀賞 1 人、優秀賞 3 人、優良賞 6 人
- 1 2 派遣 最優秀賞、優秀賞の計 4 人はイギリス派遣を内定する。

第 23 回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーション

コンテストプログラム

日時 2023 年 8 月 31 日(木)午後 2 時～
場所 ちゃたんニライセンター 1F カナイホール

1. 開会式 14:00～14:10

- (1)主催者あいさつ 教育長 原田 利明
(2)激励のあいさつ 町長 渡久地 政志

2. スピーチ・カンバセーション 14:10～15:30

- (1)趣旨説明及び審査委員紹介 (司会)
(2)スピーチの部 14:15～14:45 北谷中学校代表4人、桑江中学校代表4人
(3)カンバセーションの部 14:50～15:30 //

— 休 憩 (約 15 分) —

3. プレゼンテーション 15:45～16:00

「インディアン・オーク号について」 北谷町教育委員会文化課 松原 哲志

4. 表彰式 16:05～16:30

- (1)成績発表及び講評 審査員長 沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科
津波 聡 教授
(2)表 彰 北谷町教育委員会 教育長 原田 利明
(3)閉会のことば 北谷町教育委員会 学校教育課長 大嶺 徹

第23回 北谷町中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテスト審査員

1. 審査員構成

英語の堪能な5人で審査員を構成する。なお、審査員長は審査の統括、講評を行う。

2. 審査員氏名

審査員長	沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科 教授	津波 聡
審査員	沖縄県立球陽高等学校 英語教諭	顧 容子
審査員	沖縄県立球陽高等学校 ALT 講師	ジョン ウィルケニング
審査員	沖縄県立北谷高等学校 英語教諭	黒島 大智
審査員	沖縄県立美里高等学校 ALT 講師	ジェナ ポンテス ボルジ

3. カンパセーション司会

北谷町立北谷第二小学校 英語指導助手 トマス デイマイク

4. 出場者

最優秀賞(1名)

北谷中学校3年 鈴木 琉心さん「My Dream for the Future」私の夢

優秀賞(3名)

桑江中学校3年 木村 暖乃さん「What I think(A Controversial topic)」私が思うこと

北谷中学校3年 長嶺 心乃さん「On My Way」私の道

北谷中学校3年 神山 夏寧さん「My Future Dream」私の将来の夢



主張発表を行った8名 上段左から
照屋 琴音さん、桑江 愛孔さん、松井 瞭典さん、大濱 寿実さん、
長嶺 心乃さん、木村 暖乃さん、鈴木 琉心さん、神山 夏寧さん

Chatan JHS
Kokono Nagamine

On My Way

Hello. My name is Kokono Nagamine. My dream is to be an actress performing on stage. I want to act abroad while using English better.

There are two things that helped me find my dream. First, I went to a concert which my dance school holds once a year. You can enjoy singing, dancing, and musical performances. What made me want to dance was a *Peter Pan* play that I saw when I was in the fourth grade. My friend belonged to this dance school, and I was excited to go there. Their performance blew my mind from the opening. Now I go to that dance school, and I want to put on a good show to make audiences happy.

The second thing was a Takarazuka Revue musical that I watched on TV. When I turned on the TV, *Romeo and Juliet* was being broadcast. First of all, I was moved by their stage setting and costumes. Moreover, I was impressed by their singing, dancing, and acting. And then, most surprising of all, there was a woman playing the part of a man. One of my biggest influences was Makoto Rei as Romeo. I was moved by her acting as Romeo because she is good at dancing, and her singing voice is beautiful. I wanted to be a stage performer like her.

So, I decided to take an exam. We only have a four-year window of opportunity to pass the Takarazuka entrance exam, starting this year. Therefore, I will continue to study at my current dance school, working hard on singing, dancing, and acting, as well as watching various videos and performances. I'm doing my best to practice independently at home so that I can grow as a performer. I would like to attend ballet and voice schools to improve my skills for the Takarazuka entrance exam. And then, I want to fulfill my dream of performing on stage. Also, I would like to not only practice singing, but also learn English well so that I can speak smoothly and fluently, and perform Western songs and dances on stage. To that end, I'm actively challenging myself to take the Eiken, and I'm working toward the goal of passing grade 2 of the Eiken before graduation.

I want to do my best in these things and give a performance that is successful overseas. I've experienced dance, I've experienced musicals, and I've absorbed a lot of things. I've been working hard without giving up, whether I'm having fun or having a hard time. I will continue to strive to achieve my dream.

北谷町立 北谷中学校
長嶺 心乃

私の道

私の将来の夢は、舞台上で活躍する女優です。英語をもっと使える様になって、海外でパフォーマンスをしてみたいです。

私が将来の夢を見つけたきっかけは2つあります。

1つ目は、私が通っているダンススクールで1年に1回あるコンサートです。コンサートでは歌やダンス、ミュージカルを披露しています。私がダンスをしたいと思ったのは、小学4年生の頃に見た「ピーターパン」のコンサートです。知り合いの先輩がダンススクールに所属していて、ワクワクしながら見に行きました。オープニングから歌とダンスが迫力満天でその凄さに圧倒されました。

そして、私がスクールに通ってから初めて、もっとたくさんのお客様にパフォーマンスをお届けしたいと思いました。

2つめは、テレビで見た宝塚歌劇団のミュージカルです。私が無気なくテレビをつけたときに、「ロミオとジュリエット」が放送されていました。そのとき、私はまず、セットと衣装の豪華さに感動しました。次に、歌唱力、ダンス力、演技力の高さにも心を打たれました。そして、なによりも驚いたのは、男性の役を女性が演じているということです。その中でも、影響を大きく受けた人はロミオ役の礼真琴さんです。身長が高く、歌声がきれいで、ダンスにキレがあり、ロミオとして演じている姿に感動しました。私も彼女のような舞台人になりたいと思いました。私も宝塚の舞台に立てるように受験を決意しました。今年から4年しかチャンスが無いので、今のスクールで歌、ダンス、演技に励みながら、いろいろな動画や舞台を見て勉強していきます。家でも自主的に練習して成長できるように頑張っています。宝塚の受験に必要なバレエ、声楽のスクールにも通ってスキルを上げて受験に臨みたいです。そして、将来の夢である舞台上で活躍する女優になりたいです。また、歌の練習だけでなく、英語もたくさん学んで、滑舌良く、なめらかに話せるようになり、洋楽の歌やダンスも舞台上で披露したいです。そのために、英検に積極的に挑戦し、卒業までに今の級から2級までとることを目標にして頑張っています。これらのことを頑張って、海外でも通用するようなパフォーマンスをしたいです。

ダンスに出会い、演劇に出会い、多くのことを吸収してきました。辛い時も楽しい時も、諦めずに頑張ってきました。これからも夢に向かって努力していきます。

Chatan JHS
Natsune Kamiyama

My Future Dream

Hello. I'm Natsune Kamiyama. I'm in the third grade of junior high school now. Recently, I have been thinking more and more seriously about my own career. Through my whole junior high school life, I have gradually come to see what I want to do and who I want to be.

In the future, I would like to work directly with people, helping and assisting them. So, I want to work as a schoolteacher because my teachers have helped me a lot. For example, when I have a problem or a bad day at school, my teachers can easily solve my problem. Also, teachers are the only adults other than our parents that we junior high school students have to deal with regularly. Therefore, I think that being a teacher is a very good job because it allows me to play a major role in people's lives.

There are three things I want to do to achieve this. The first is to talk to a lot of people, such as people who live in a different country than me. This is because I believe that making friends with various people from around the world will broaden our horizons and lead to new discoveries. Chatan is blessed with many people who can speak English. I would like to take advantage of this opportunity to learn English and broaden my horizons.

The second thing I want to do is study. I think it is necessary to understand something myself in order to teach others and be useful to them. I also believe that studying will enhance my ability to understand people. It's very important to understand people in order to directly interact with them. I believe that studying helps me a lot. The more you study, the more you understand, and the more your horizons will expand.

The third is to have self-confidence. At first look, having self-confidence may not seem like a good thing, as it may make you seem arrogant or conceited, but I think that's wrong. My English teacher always makes us say, "I am a genius," because putting it into words makes us feel confident about ourselves. And when you put it into words, you feel that you have to work hard to become that person. Confidence gained through effort is not arrogance, and doesn't make you spoiled. I believe that this confidence will give us the courage to take on various challenges. By doing my best in these three things, and especially in learning English, I hope to fulfill my dream of working in a job where I can help others and be of service to them.

北谷町立 北谷中学校
神山 夏寧

私の将来の夢

こんにちは。私は神山夏寧です。

私は、中学 3 年生になり、自分自身の進路について真剣に考えることが多くなりました。これまでの中学校生活の中でやりたいことやなりたい自分が少しずつ見えてきました。

私は将来直接人と関わり、人の役にたったり助けたりする仕事をしたいと思っています。だから私は、学校の先生になりたいです。なぜなら私はそれらの人にとっても助けてもらったからです。

私が学校で悩み事や嫌なことが会ったとき、学校の先生はいとも簡単にその悩み事を解決してくれます。また、学校の先生は私たち中学生が親以外と関わる唯一の大人と言ってもいいくらいの大きな存在です。だから、人の人生に大きく関われる先生という仕事はとてもいい仕事だなと思っています。

その為に頑張りたいことが 3 つあります。一つ目は、たくさん話すことです。例えば、自分とは違った国に住んでいる人などです。なぜなら、世界のいろいろな人と仲良くなることで、自分の視野が広がり、新しい発見につながると思うからです。北谷町には恵まれたことに英語を話せる人が多くいます。わたしはこのチャンスを生かし、英語を学び、自分の視野を広げていきたいと思えます。

二つ目に頑張りたいことは、勉強です。人にものを教えるのも誰かの役に立つにもまずは自分が理解していないといけないと考えるからです。また、勉強することで人間を理解する力も高まると思います。直接人と関わるには人間について理解することはとても大切です。勉強は自分の為にもなると思います。勉強をするとわかることが増え自分の視野は広がっていくと思います。

三つ目は自分に自信を持つことです。一見自信を持つことは傲慢に見えたり自分に甘くなったりしてそこまでいいことには感じないかもしれませんが、それは間違っています。私の英語の先生はいつも私たちに私は天才だと言わせます。言葉にすることで自分に自信が持てるからです。また言葉にするとそれになれるように頑張らないといけないと思います。頑張った自信は傲慢でもなく自分を甘やかすこともありません。その自信があることで色々なことにチャレンジする勇気が持てると思います。

以上、三つのことを頑張りたい、特に英語を学んでいきたいと思っています。将来の目標である人の役に立ち、人を助けられる仕事につくという夢を叶えたいです。

Chatan JHS
Lilo Suzuki

My Dream

Hello. I'm Lilo Suzuki. Have you ever thought about your dreams? I have a dream that I want to make come true. Today, I'd like to talk about it.

I will go abroad in the future and become a Japanese language instructor. For that purpose, I want to learn various languages and be able to communicate with people from various countries because I think it would be useful for explaining details and making myself clear when teaching Japanese to foreigners. I think learning the languages of various countries will be a very good experience not only for my future, but also for me now. For instance, we can make friends all over the world by speaking English. In fact, being able to speak English has allowed me to make friends with people from Korea, Canada, and the UK. Making friends around the world has really broadened my perspective. For example, I have been able to learn a lot about foreign life by interacting with foreigners.

When I become a Japanese teacher, I want everyone to learn the joy of speaking a foreign language and the fact that being able to speak a foreign language opens up a whole new world. My goal is to teach the beauty of the Japanese language to people from various countries. For example, the word "itadakimasu", a simple word we say before a meal, has a meaning of expressing gratitude towards the ingredients used and the people that produced them. By explaining the meaning behind the words, people can also learn about the Japanese culture, which will make the learning experience more fun.

Moreover, through learning Japanese, I want more people to be interested in other languages as well because, based on my own experience, I think if people learn various languages, it will enable them to interact directly with people from other countries, which will truly help them broaden their perspectives.

For those reasons, I will definitely become a Japanese teacher.

Thank you for listening.

北谷町立 北谷中学校
鈴木 琉心

私の夢

こんにちは、私は鈴木りろです。皆さんは将来の夢について考えたことがありますか？私には、必ず叶えたい夢があります。今日はそのことについて話していきます。

私は海外に行って日本語講師になります。

そのために私は、色々な国の言語を学び、色々な国の人とコミュニケーションをとれるようになりたいです。なぜなら日本語を教えるときに役に立つと思うからです。

色々な国の言語を学ぶことは、将来の自分だけでなく、今の自分にとってもすごく良い経験になると思います。

例えば、私達は英語を話すことで世界中の人と友達になれます。

実際、私は英語を話すことで、韓国、カナダ、イギリスの人たちと友達になることが出来ました。

世界中に友達ができたことで私の視野はすごく広がりました。

例えば、外国の人と交流することで、海外の生活について沢山学ぶことが出来ました。

私が日本語講師になったら、外国語を話すことの楽しさや、外国語を話せるようになることで広がる世界をみんなに見てほしいです。

私の目標は色々な国の人々に、日本語の美しさを教えることです。

例えば、食事前の挨拶「いただきます」には使われている食材や、作ってくれた人への感謝が込められている事などです。

このように、日本の文化を知ることで、日本語を学ぶことがより楽しくなると思います。

そして、日本語だけでなく、色々な言語に興味を持つ人が増えてほしいです。

なぜなら、その国の言葉を学んだり、その国の人と直接交流して色々な文化を学んだ方が面白いと思うからです。

これらの理由から、私は必ず日本語講師になります。

ご聴取ありがとうございました。

Kuwae J.H.S.
Nonno Kimura

What I Think (A Controversial Topic)

When I was 11 years old, I learned about “sexual diversity.” Have you ever wondered what is “sexuality diversity”? It’s not an easy topic but it’s an important one. Therefore, I would like to talk about it. When I first heard about it, I was indifferent and it didn’t mean much to me. However, all that changed after an incident that made this matter important to me.

One day, one of my friends confided in me that she was bisexual. This friend who I had known for several years and got along very well with so it came as a surprise to me. I had to re-think, re-learn a new point of view so I could accept my friend who had the courage to open up to me. By sharing our thoughts and listening to each other with respect we came to understand the other’s point of view. By discussing sensitive points such as what words hurt us, how we view ourselves in society, I can say that I no longer feel discrimination against men or women. Through this exchange, not only my friend but I was also able to value my individuality and discover who I am.

From a global perspective, Japan lags behind in terms of gender diversity and does not recognize same-sex marriages. There are people like my friend who are suffering because of this. In order to reach out to them I think it is necessary to recognize gender diversity. Gender diversity is known worldwide as LGBT but labelling it does not mean it is accepted.

We need to accept people around us for who they are. I hope one day we can all work together regardless of sexual orientation. For the happiness of each and every one of us!

北谷町立 桑江中学校

木村 暖乃

私が思うこと

11歳の頃、私は性の多様性について学びました。そもそも性の多様性とは何なのか、みなさんは考えたことはありますか。

それは簡単なテーマではありませんが、とても重要なことです。私は、これから性の多様性について話したいと思います。

当時、私は無関心で、関係のないものだと思っていました。しかし、1つの出来事が起きたことによって、私の考えがすべて変わりました。

ある日、友人の一人が自分はバイセクシャルであることを打ち明けてくれました。その友人は数年来の付き合いでとても仲良くしていたので、私はとても驚きました。私に心を開いて勇気をもって話してくれたことを受け入れるために、私は、考えたり新しい視点を学びなおしたりしました。

お互いに考えを共有し、相手に敬意を払って話を聞くことで、お互いの立場や置かれた状況を理解し合うことができるようになりました。どのような言葉で傷めるのか、社会においてどのようにみられているのか等、センシティブな点について話し合ったおかげで、今ではジェンダー格差を感じなくなりました。この経験を通して友だちだけでなく私も、自分の個性を大切にし、自分らしさを知ることができました。

世界的に見ると日本は性の多様性の認識が遅れており同性婚も認められていません。私の友人のようにそのせいで苦しんでいる人がいます。彼らに手を差し伸べるために、性の多様性を認識する必要があると思います。性の多様性は世界的にLGBTとして知られていますが、受け入れられているわけではありません。

私たちは周りの人をありのままに受け入れる必要があります。いつか性の多様性が広がり、性的指向に関係なく一緒に働ける日が来ますように。一人一人の幸せのために。

英国派遣交流及び視察研修

1 英国訪問のねらい

- (1) 北谷町の歴史と伝統を尊重し、次代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習慣を見聞し、本町の発展に寄与する。
- (2) 英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取り組みに資する。
- (3) 英国の中等学校生徒との交流を深めることで、将来の希望と抱負を持ち、自己を高める機会とする。

2 実施期日、目的地、訪問先等

- (1) 実施期日 2023年11月16日(木)～11月24日(金)
- (2) 目的地 英国ディーン・マグナスクール及びその近郊
グロスターシャー州 ミッチェルディーン

3 英国訪問団氏名

引率	桑江中学校	教諭	岸本 亮子
引率	北谷中学校	教諭	町田 宗之
中学生	北谷中学校	3年	宮里 柚杏
	北谷中学校	3年	大城 海慳
	北谷中学校	3年	鈴木 琉心
	北谷中学校	3年	神山 夏寧
	北谷中学校	3年	長嶺 心乃
	桑江中学校	3年	仲地 輝
	桑江中学校	3年	奥原 拓大
	桑江中学校	3年	木村 暖乃

4 緊急連絡先

北谷町教育委員会	電話:098-982-7705 FAX:098-936-3491
北谷町立北谷中学校	電話:098-936-3929 FAX:098-936-0171
北谷町立桑江中学校	電話:098-936-2244 FAX:098-936-0172

5 交流校 ディーン・マグナ・スクール(Dene Magna School)の連絡先

住所：Abenhall Road, Mitcheldean, Gloucestershire, GL17 0DU
電話：+44 1594-542370 FAX：+44 1594-544862
校長：Mr. Stephen Brady (スティーブ ブレイディ)
国際交流担当：Gemma (ジェマ) 先生、Paul (ポール) 先生、Lynne (リン) 先生、Sam (サム) 先生

6 現地旅行社連絡先

会社名: JALPACK INTERNATIONAL(EUROP)B.V. 時間: 9:00-17:30(現地時間)
住所: 4TH FLOOR, STANDON HOUSE, 21 MANSELL STREET, LONDON E1 8AA, U.K.
電話: 020-7264-5193 FAX: 020-7264-5195
緊急連絡先: 07968-629-937

在英国日本大使館・総領事館

住所: 101-104 Picadilly London W1J 7JT

受付時間 9:30-16:30

電話: 020-7465-6500

FAX: 020-7491-9348

7 英国訪問の心得

(1) 基本的な心構え

- ① 健康・安全に十分気を付けましょう。
- ② 身なり服装は、きちんとする。言動にも気を配り、マナーを守りましょう。
- ③ 忘れ物がないように前日までに必ず準備しておきましょう。
- ④ 見学時間は厳守し、礼儀正しく、いつでもどこでも集合時刻、集合場所を確認してから行動しましょう。
- ⑤ 英国の学校との楽しい交流ができるように、よく事前学習をしておきましょう。
- ⑥ 毎日の様子が記録できるようにメモ帳を持っておきましょう。
- ⑦ 貴重品は、大切に保管しましょう。
- ⑧ 就寝時間、起床時間を守りましょう。

(2) 保健的な心得

- ① 衣服の調節に気を配りましょう。
- ② 寝冷え、暖房での乾燥に気を付けましょう。
- ③ 偏食しないでなんでも食べるようにしましょう。
- ④ 飲み過ぎや食べ過ぎに気を付けましょう。
- ⑤ 水道水などの生水や、生ものは避けましょう。
- ⑥ 薬は普段使用しているものを持っていきましょう。

(3) 乗り物酔いについて

- ① 寝不足をさける。
- ② 乗り物酔いの先入観を捨てる。友達とおしゃべりしたりして気分転換を図る。
- ③ 空腹の状態ですり物に乗らない。
- ④ 近くを見ないで、遠くの景色を見るようにする。
- ⑤ 気分が悪くなりかけたら寝る。

(4) 非常時の心得

- ① いかなる場合でも異常が発生したときには、先生または添乗員に速やかに連絡する。
- ② 慌てず、騒がず、落ち着いて添乗員及び引率者の指示に従って行動する。

8 スケジュール

11/16 Thu	沖縄～羽田
13:00 集合	那覇～羽田 JAL988 14:45-17:00(2h15mins) 羽田にて1泊 ホテル JAL シティ羽田東京ウェストウイング*
11/17 Fri	羽田～ヒースロー空港着～フォレストオブディーンへ
AM PM	羽田～ロンドン JAL043 09:30-15:15(12h45mins) ロンドン ヒースロー空港着(ターミナル3) 交流校バスにてホテルへ ディーンマグナ近くのホテルにて夕食&宿泊 「The Royal Hotel, Ross on Wye」 住所 Royal Parade, Ross-on-Wye, UK HR9 5HZ
11/18 Sat	ホストファミリー対面式・ファミリーデー
午前9:00 終日	ホテルで朝食後, そのままホテルでホストファミリーと顔合わせ ファミリーデー ●ホームステイ1日目
11/19 Sun	ロンドン市内へ視察研修
終日	1 マイクロバスにてロンドン市内へ。視察研修 (DMS 交流メンバー・引率者・ホストファミリー保護者含む) ●ホームステイ2日目
11/20 Mon	ディーン・マグナ・スクール
終日	ディーンマグナスクールにて 1 歓迎会、学校ツアー、授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 ホスト生徒と授業参加 ●ホームステイ3日目
11/21 Tue	高校・小学校訪問/ディーン・マグナ・スクール
午前 午後	1 DMS SixForm (高校)、ドライブルック小学校訪問 2 カフェでランチ 3 ディーン・マグナの森、チェプストー城見学 ●ホームステイ4日目
11/22 Wed	ディーン・マグナ・スクール/グロースター
午前 午後	1 授業参加 2 ランチ&アフタヌーンティー 3 グロースター大聖堂見学へ ハリーポッターの撮影場所にもなったところ。 4 レストランにてお別れ会ディナー ●ホームステイ5日目
11/23 Thu	ヒースロー空港へ
午前 午後	1 オックスフォード大学視察 2 空港へ 第3ターミナルにて搭乗手続き ロンドン～羽田 JAL044 18:30-17:20(11h50mins) ●機内泊
11/24 Fri	機内にて日付変更
午後	羽田～那覇 JAL925 20:00-22:50(2h50mins) 那覇到着! お疲れ様でした♪



英国派遣を終えて

北谷中学校3年 宮里 柚杏

11月16日、ついに私たちが待ち焦がれていたイギリス派遣がスタートしました。これから24日までの9日間に大きな期待を膨らませながら沖縄を発ちました。東京で1泊した後、皆で仲良く順調な滑り出しをきっていた私たちを襲ったのは、13時間という長時間のフライトでした。座りっぱなしで半日過ごすのは想像を超える辛さでフライトを終える頃には体も心も疲れ切っていました。しかし、ディーンマグナの先生が用意してくれたウェルカムボードを見た瞬間、「今、本当にイギリスにいるんだ!」と実感し、これまでの事がなかったかのように元気がみなぎってきました。

次の日から5日間のホームステイが始まりました。ずっと会いたかったホストファミリーと対面し、バーベキューパーティーやロンドン観光を通して、私たちも家族の一員になったかのような信頼関係が生まれました。日本とは比べものにならないほど寒い気候や広い庭、広大な自然に珍しい動物など初めて経験することがいっぱいでした。私たちに様々なことを教え、多くの事を経験させてくれたホストファミリーには感謝でいっぱいです。イギリスでの生活は学校や観光など楽しいことがたくさんあったけど、この家族と過ごせる家での時間が何よりも幸せで大好きでした。



3日目からは私たちの学校生活も始まりました。初登校で不安だった私をホストのエラはいつも助けてくれました。音楽をかけながら授業をしたり、授業の度に教室を移動したり、日本とは異なっていることが多くてなんだかワクワクしました。また、これまでずっと練習してきたプレゼンテーションの発表では、みんなが真剣に聞いてすごく興味を持ってくれたことが嬉しかったです。私は改めて自分たちの沖縄、その文化に誇りを持つことができました。そしてイギリスでの学校生活を通して気づいたのは、ディーンマグナスクールには意欲的な生徒がとても多いということです。授業中どこを見渡しても寝ている人はおらず、みんな自主的に授業に取り組んでいる様子が見られました。また、廊下を歩いていると話しかけてくれる子や、私たちに質問をしてくれる子もたくさんいて、積極的に私たちのことを知ろうとしてくれました。そんな彼らのおかげで、イギリスではたくさんの友達ができ、毎日が驚くほど楽しかったです。



この一週間を振り返って、私は積極性という面で大きく成長できたと思いました。恥ずかしいという殻を破り、とにかく新しいことにチャレンジし続け、たくさんの人に話しかけました。そのかいもあって、短い期間の中で後悔は少しもありませんでした。でも思い返してみると、それはたくさんの方のサポートがあってこそのものだと気づきました。いろいろな場所へ連れて行ってくれた家族、分かりやすく話してくれる友達、丁寧に様々なことを説明してくれた現地の先生達など、関わってくれた全ての方のおかげで、私のイギリスでの生活はかけがえのないものになりました。また、この旅を通して人と関わることの楽しさを覚えました。国と言語が違っていても、仲良くなり助け合うことができる喜びを学びました。たくさんのお返しをもらったので、次はそれを倍にして返せるような人になりたいと思いました。実際にやってみて経験しないと気づかないことがたくさんあることを知ったので、これまで以上にいろんなことに挑戦しようという意欲が湧きました。イギリスの人たちの温かさに包まれて、短い時間でこんなに多くの事を学ぶことができました。

英国派遣を終えて

北谷中学校 3年 大城 海慳



僕たち英国派遣団は11月16日から24日までの9日間、北谷町の代表としてイギリスの地で多くの経験をし、学んできました。

いつもの年なら沖縄から羽田、そのままイギリスに行くはずでしたが、今回はフライトの都合で羽田空港の近くにあるホテルに前泊しました。僕たちは朝からワクワクで、ホテルに着いてからも皆で部屋に集まり、イギリスでやるプレゼンテーションの練習をしたり、みんなでお菓子を食べたりしていました。次の日の朝、寝ぼけたまま朝食を食べに行き、終わったらすぐに空港にいました。初めての国際線、初めての13時間という長い空の旅は、寝ても寝てもとても長く感じました。

イギリスに着くと先生達がウェルカムボードを持ってお迎えしてくれ、とても嬉しかったです。ホテルまでは車で3時間くらいだったけど、みんな疲れていて寝ていてあつという間に着いたと思ったら外はもう真っ暗で、建物や風景がガラッと変わっていて、改めて外国に来たんだなと感じました。この時からホテル店員さんとのコミュニケーションや注文もずっと英語を使っていました。次の日の朝、ホームステイ先の家族が迎えに来てくれて初めてアダムに会ったら写真で見ていたよりとてもでかくてびっくりしました。でも想像通りとても優しく、アダムだけじゃなく家族全員が優しくて温かったです。

次の日ロンドンに行くバスの中で、みんな緊張しながらも英語で楽しく話しているのを見て、英語が上手になった気がしていました。ロンドンに向かう間、のどかな風景、畑や動物は高いビルや車に変わり、バッキンガム宮殿やM&Msのミュージアム、ハリーポッターのお店など色んな所に行ってイギリスを満喫できました。



次の日は初めての学校に行きました。朝からスクールバスに乗って最初は緊張したけど、みんなの前でプレゼンやエイサーをしてからはたくさんの人が声をかけてくれ、男の子も女の子もいっぱい友達でできました。一人一人がとても優秀で、先生方も皆優しく、授業がとても楽しく受けられました。理科や数学、フランス語もあったけど、一番は英語の授業が難しかったです。とても分厚い英語の本を渡されたけど、さっぱり理解できませんでした。学校が終わってアダムとみんなでアイススケートに行き、もっと仲良くなれました。

次の日はイングランドにある最古の石造りのお城や、とても頭のいい人しか行けない高校、可愛い子供たちがいっぱい幼稚園、小学校にも行きました。その日は皆でボーリングに行って楽しい時間を過ごしました。次の日はグロスター大聖堂というハリーポッターの撮影にも使われた所に行ったり、お土産を買いに行ったり、余った時間カフェでティータイムもしました。この時、もうそろそろ日本に帰らなくてはいけなくとも思っても寂しくなりました。アダムもフィービーもいつも優しくずっと一緒にいたかったです。お別れディナーを食べに行った時、たくさん話をしたり恋ばなをしたりしました。帰る前に最後にみんな写真撮れてよかったです。

最終日、学校に着くとみんな泣いていて、みんなでぎゅーして写真を撮ってお別れしました。空港に向かう途中、サム先生のおかげでオックスフォードに行って大学や街を見ることができました。

この一週間、短かったけど色々な所に連れて行ってもらったり色々な事をさせてもらえて、僕の人生の中でずっと残る濃くて充実した時間になりました。イギリスの人たちはとても優しく、温かくて面白くて大好きになりました。イギリスで見た街の風景、動物たち、豊かな自然、何もかもが新鮮で日本では味わうことができない感情や考え方を学ぶことができました。

この英国派遣を通し、僕は言語の壁を越え新しい考え方や価値観に出会えました。これからも英語力をさらに伸ばしてこれからの国際社会を担う人材になれるよう頑張ります。それから、僕はこの8人で英国派遣ができてとてもよかったです。また将来みんなでイギリスにいる友達に会いに行きましょう。最後に、この英国派遣という機会をくれた方々、ずっとサポートしてくれた方々、ありがとうございました。



私達は、11月16日から11月24日までの7日間、イギリスに派遣されました。イギリスに行くことは小学生の頃からの夢でもあったため、今回の派遣の事を知ったとき私は「絶対にスピーチコンテストで良い成績を残してイギリスに行こう」と心に決めていました。スピーチコンテストは何回も文章を作り直したり、海外に住んでいる友達に相談したりしながら毎日必死に頑張って、最優秀賞を収めることが出来ました。派遣が決まってから出発までの期間は、「この短期間でいかに多くの単語を覚えられるか」にかけていました。初めてアジアを出るのがまさか親無しとは想像もしていなかったので楽しみだけど不安もたくさんありました。だけど自分の英語に自信がついていく事でその不安は少しずつ解消されていきました。



出発の日、もう不安は消えて「いよいよ出発だ」とドキドキワクワクしていました。14時間のフライトは上がりきっていたテンションを落ち着かせるのにはちょうど良いものでした。映画を見ても夢を見てもなかなか到着しなかったです。14時間後、やっと到着して待っていたのは違う世界でした。

何もかもが大きくて、見たこと無いものばかり。もちろん、日本語は一切聞こえてきませんでした。その感覚が不思議で、それだけでもう楽しかったです。迎えにきてくれていたディーンマグナの先生達と一緒にスクールバスに乗って、ホテルに向かいました。疲れていたのが前泊の東京のホテルとは違ってすぐに眠れました。

2日目、いよいよホストファミリーに会う事ができました。ホームステイはドキドキだったけど、ホストファミリーのおかげで自分の家のような安心感の中過ごすことができました。

3日目はロンドン観光でした。お城の様な建物に、赤色の観光バス、バッキンガム宮殿から聞こえてくる音楽は私達を映画の世界に連れて行ってくれました。1番記憶に残っているのはバッキンガム宮殿の交替式です。人がたくさんいたので私はホストファミリーのお父さんに肩車をしてもらいました。

4日目はついに登校の日です。ディーンマグナスクールはとても自由で1人1人の個性を大切にしている学校でした。授業中寝ている生徒が1人も居ないことや、ピアスやメイクが許可されている、生徒みんなの仲がいい、そんなディーンマグナの雰囲気が私はとても気に入りました。

5日目には高校と幼稚園をまわりました。高校の建物はまるで大学のような造りで、そこにいるだけで頭が良くなりそうな綺麗な図書館もありました。この高校には頭の良い生徒しか通う事ができないと聞いて日本でいう特進クラスの様なものなのかなと思いました。幼稚園には元気いっぱい可愛い生徒がたくさんいました。プレゼンテーションの後の質問タイムで「日本にガソリンスタンドはあるの?」と聞いてきた子が



いて、遠い国に対する疑問が私たちが思うものとは違ってすごく面白かったです。その後もお別れディナーに行ったり、オックスフォードをまわったり、一生で1回するかもわからないような素敵な体験をたくさんしました。

私は、「イギリスは本当に素晴らしい世界を見せてくれるとても素敵な場所だ」と、実際に行って改めて感じる事ができました。今回のイギリス派遣は異国文化を学ぶこともできたし、日本の良さを改めて感じる良いきっかけにもなりました。そして何より、小学生のころからの夢を叶える事ができました。私はこの派遣で満足するのではなく、この派遣をきっかけとして更に多くのことを学び、このきっかけをくれた北谷町に貢献できるような人になります。素晴らしい体験をさせてくれた北谷町教育委員会の方々、そしてイギリスの先生やホストファミリー、自分の家族に感謝しています。本当にありがとうございました。

英国派遣を通して

北谷中学校3年 神山 夏寧



私は、明るく元気で思いやりのある仲間とともに、英国に派遣されました。家族のいない海外は初めてで、ホームステイの間、一人で英語を話し、コミュニケーションを取らなければならないことなど多くの不安を抱えたまま、イギリスへ出発しました。イギリスへは片道13時間かかり、映画を観たりおしゃべりをしたりして過ごしてもまだ時間が余るくらい、とてもとても長い時間でした。

イギリスに着いた初日は、夜遅かったこともあり、そのまますぐに眠り、次の日いよいよホームステイ先の家族と対面しました。最初は緊張で上手く話すことも、顔を見ることもできませんでした。ですがお家に着いたら、庭にいる馬や羊などのたくさんの動物に餌やり体験をさせてくれたり、お菓子をプレゼントしてくれたり、一緒にアニメを観たり、私の緊張は徐々に薄れていきました。

2日目はロンドンへ行きました。ロンドンへ向かうバスの中から見える景色が、日本では絶対に見ることができないようなもので、とてもうきうきしてきました。実際にバスから降りて街を歩いてみると、レンガ造りの建物や細部までこだわられた彫刻、そして広がる自然、赤い公衆電話。ここでしか見ることのできない美しい景色で、歩いているだけでワクワクしました。赤い公衆電話では、電話をする人はおらず、みんな写真を撮るために列を作って並んでいて面白かったです。

そして3日目、ディーンマグナススクールで授業体験を行いました。授業では、光の反射の法則や図形の拡大縮小など、日本でも習うもので先生の話が少し理解することができ安心しました。イギリスと日本というこんなに離れた国でも同じ内容を学習していることが面白く、楽しかったです。一方社会では、日本では日本目線で語られるのと同じように、イギリスではイギリスの立場から習うので、内容が少し変わっていたり捉え方が違ったりしていました。その体験を通して、授業で習ったこと、ニュースで見たものをすべて鵜呑みにするのではなく、自分でしっかり調べ、考え、自分の意見をつくるメディアリテラシーの大切さが改めてわかりました。学校ではみんなフレンドリーに話しかけてくれ、制服が可愛いね！と声をかけてくれたり、たくさんの友達を作ることができました。また、エイサーを演舞した時は、その衣装とてもかわいいねとみんなが褒めてくれ、とても嬉しかったです。イギリスの校長先生が三線を持っていて、日本についてよく知ってくれていたことも嬉しかったです。

高校、小学校にも行き、多くの人と触れ合いました。小学生には一緒にダンスを教えてもらい踊ったりゲームで盛り上がったたり、楽しい時間を過ごしました。高校は大学のような雰囲気でもとても楽しかったです。

放課後にはホームステイ先の家族がボーリングやアイススケートなど色々な場所に連れて行ってくれました。みんな身長がものすごく高く、家族みんな仲良しで、愛が伝わり楽しい日々を過ごすことができました。また、お母さんの手作りケーキがすごく美味しくて、それを食べるためだけにまたイ



ギリスへ行きたいほどでした。

イギリスでは車から見える建物、木、動物、そしてひんやりと乾燥した空気、すべてが新鮮で、車に乗るたび外の景色を見て写真を撮ったり驚いたりはしゃいだりしていたので、笑われました。この景色が日常の一部にある人がいる、ということが羨ましく感じられ、日本を愛する外国人や沖縄へ観光に来る観光客の気持ちがわかったような気がしました。

この一週間、毎日が楽しく、驚きだらけでもう二度と経験することのできないことができたと思います。この体験をこれからの人生に生かし、行動することの大切さ、仲間と協力するコミュニケーション能力の大切さ、そしてなにより、失敗を恐れず何事にも挑戦することの大切さを理解し、多くの事に挑戦していきたいです。

最後に、中学生でイギリスに行くという貴重で素晴らしい経験をさせてくれたたくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



英国派遣を終えて

北谷中学校 3年 長嶺 心乃



11月16日から24日までの9日間、私達8人はイギリスへ派遣されました。私は初めての海外でとても楽しみにしていましたが、その反面、初めての地や交流校、ホームステイ先の過ごし方など不安や心配な事もたくさんありました。イギリスに着いた次の日、いよいよホストファミリーのジョージアと父母、姉のタックファミリーに直面し、「やっと会えた！」と嬉しくてたまりませんでした。緊張をほぐすためたくさん話しかけてくれたり、ドライブしながらランチを食べに行きました。街並みが日本とは違いすぎて、思わず感嘆の声が出ました。ランチはピザで、皆で一枚を食べると思ったら1人一枚で驚きました。クリスマスマーケットでは雑貨や衣服、食べ物も売っていて、早速日本との違いを感じた日でした。

2日目は楽しみにしていたロンドンへ視察研修に行きました。出発してから時間が経つにつれて、街並みが木や草原から大きな建物に変わっていきました。バスを降りるとまず、私が出発前から行きたいと言っていた公園に連れて行ってくれました。広くて大きいだけでなく、落ち葉の積もる量や形、リスやペンギンなどとにかくたくさんいて、都市の中に自然が残っていることが素敵でした。バッキンガム宮殿の衛兵交代式では、列、足音、歩幅や速さ何から何まで揃っているのが見られました。ビックベンはいギリスならではの石造りの外観で珍しく思いました。そこから初めての地下鉄に乗り、M&Msのショップへ向かいました。自分で計量してチョコを買えるのですが、たくさん入れすぎそうで少し焦りました。他にもお土産ショップやチャイナタウンなどにも行けて、充実した一日になりました。

月曜日はディーンマグナススクール初登校で、バス通学のバスまでもが2階建てバスで朝から驚きました。すごく緊張して不安でしたが、プレゼンしたりエイサーを踊ったり、生徒の人たちが真面目に聞いてくれて練習して良かったと感じました。休憩時間にはたくさんの人から話しかけられたり、授業中は先生や生徒たちにサポートしてもらい、色々な人と話せて、「今、英語で会話ができています！」と思えたことがすごく嬉しかったです。放課後、ジョージアが習っているバトントワリングの見学に連れて行ってくれました。ジョージアが最前列の真ん中で踊っている姿がとても格好良かったです。その後、夕食で私が行く前からメールで話していた Toad in the hole (穴の中のヒキガエル) という料理を作ってくれ、とても美味しかったです。



6日目は高校と小学校の訪問に行きました。高校は色々な施設が充実していて、20以上の学習分野から選択して受けられると聞いて、沖縄や日本と比べるとすごく多いと感じました。小学校ではプレゼンの漢字クイズが盛り上がりしました。1年生のクラスで歌とダンスを教えてもらいとても楽しかったです。ディーン森は、沖縄と違って高い木が多く、森の中にステンドグラスがあってとても綺麗でした。放課後、みんなのホストファミリーと一緒にボーリングに行きました。みんなでエアホッケーで勝負して、夢中で楽しめました。ボウリングは得点勝負をして、言葉の壁を越えて楽しむことができました。



て、言葉の壁を越えて楽しむことができました。

7日目、ディーンマグナススクールでの最後の授業はスペイン語で、英語で更にスペイン語をするのに頭が混乱しながらも、必死でついていきました。休憩時間に、私がイギリスで絶対に経験したかったアフタヌーンティーを家庭科の先生が用意してくれました。その後、バスでランチを食べながらグロスター大聖堂に向かいました。ハリーポッターの映画で見たことのある光景にワクワクしました。他にも天井や壁、ステンドグラスがとても美しく、言葉を失うほどの素晴らしい光景を目に焼き付けました。たくさん写真や動画を撮って母に送るとすごく喜んでくれたので、母にステンドグラスのポストカードをプレゼントしようと思いました。お別れディナーでは、みんなの仲がすごく深まっていると気づきました。明日が最後だと思うと寂しい気持ちが一気に押し寄せてきました。

いつもより早く起きた朝、まだまだ学校で授業を受ける気でいましたが、ホストファミリーのお姉さんや犬たちとお別れをすると、今日が最後なんだと実感がわきました。学校に着いてみんなのうるうるした顔を見ると私も我慢していたものが込み上げてきました。たくさんハグをして写真を撮って別れを惜しみながらもバスに乗り込みました。最後までみんな手を振っていてくれて嬉しかったです。

イギリスでは景色や建物、生活様式の何もかもが初めてで新鮮で、驚き、感動を味わうことができました。長いようで短い9日間はたくさんの出会いや別れ、学びがありました。英国派遣で学んだことは、分からないことは積極的に質問することで自分の知識が増えていくということです。これはどの国、どの場所にいても同じだと言えます。この貴重な経験を周りの人にも伝えていきたいです。

最後に、このような素敵な機会を与えてくださり、支えてくださった方々に心から感謝しています。



英国派遣を終えて

桑江中学校 3年 仲地 輝



私は学校推薦によって選ばれ11月16日から24日までの9日間、イギリスへ派遣されました。海外は初めてではなかったのですが、13時間という飛行機の長さはびっくりするほど長く、映画を観ても寝ても起きてもまだ6時間…と旅の中で初めての驚きでした。イギリスに着くとサム先生とリン先生が迎えに来てくれていて、緊張していた心が2人の明るく、温かい笑顔とウェルカムボードでまるで氷が解けるような感覚を味わい、それと同時に「もうここは日本でもなくイギリスなんだ!」と自覚しました。ヒースロー空港からホテルまでなんと!車で3時間くらいかかりびっくり!!しました。ホテルに着いたらもう日本人は私達以外なくて、何かしたい時も英語で話さないと伝わらない環境の中、仲間と共に頑張り、一日目にしては凄く濃い思い出ばかりだなと思いました。

2日目は初めてホストファミリーのエラと会う日でした。私は柚杏とパートナーと一緒に、一緒に泊まることは勇気づけられました。しかし私の英語のできなさと積極性のなさに気づかされました。そんな中、3日目ロンドン視察をし、写真を撮ってもすべてが映画のような場所でとても最高でした。



4, 5, 6日目は私たちの目的の一つ、ディーンマグナス学校の生徒と交流する日で、あの時は言葉に表すことのできない緊張、不安がダブルパンチできました。でも、仲間とプレゼンをしたりエイサーを披露したり、みんな真面目に聞いてくれたり、笑顔を見せてくれたりした時は嬉しかったです。沖縄の学校とは違うこともたくさん学びました。授業では誰一人先生の話聞いていない人はいませんでした。



すべてが英語で進められるので戸惑いも感じながら少しずつ理解してくる自分に成長を感じる場も少なくはありませんでした。ここイギリスで私は人生で一番の最高の誕生日を迎えることができ、文化の違いはあっても、このような素晴らしい経験ができた機会に感謝しました。

派遣をきっかけに私は、言語の違う文化では積極性が大切だな、と毎日毎日感じました。相手が話しかけてくれるのを待つのではなく、私から行く。自分から行かないと何も学べない、話すこともできないという事を知り、失敗してもいいんだな、そこから人は学ぶことがたくさんあるとわかり、もしこの文章を読んでいる私の次の代の子達に私が言えることは、「積極的に行動することは、言語の違う国ではなかなか難しいかもしれない、だが言語が違うからと殻にこもるのではなく、あなた自身の心の中にいるもう一人の自分に気づかせてください、自分から行かないと何も始まらないよ」と。ほんの少しの事でもいいんです。相手の好きな事を聞いたり、嫌いな事を知ったり、そしたらいつの間にか国境を越えた友ができると思います。それは誰もが作れるとは限りません。殻にこもっている、明るくて、元気な、優しい、あなたにしかない特別な性格を表に見せることが大切だと思っています。

この素晴らしい機会に、私は心の底から感謝します。文化が違っても言語が違ってもなんにも悩むことはない!共に歩めばいいのだと、長いようで短い期間で学ぶことができました。本当に協力してくださった方々に「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。



英国派遣を終えて

桑江中学校3年 奥原 拓大

僕は11月16日から24日までの9日間、北谷町の英国派遣団としてイギリスへ派遣されました。初日、家から出る時はワクワクやドキドキでいっぱいでした。空港に着いてもあの憧れのイギリスへ行ける実感がわきませんでした。13時間という長時間飛行に乗ったことがなかったから、とても楽しみでした。保安検査場を抜け、やっと飛行機に乗るのかと思いきやドキドキしていたら、その日は東京までだったのでそれほど長く感じませんでした。東京上空を飛んでいる時は周りが暗く、夜景がキラキラしていて都会感がすごかったです。派遣団のみんなとは事前学習の時点で仲良くなっていたので、東京でも楽しかったです。次の日の朝、イギリスへ向かう便に乗りました。機内は快適で13時間なんて余裕と思っていたけど、映画を数本観ても、寝ても音楽を聴いても何しても全然時間が減らず、この長さを体験して初めてやっとイギリスへ行くという感覚を感じました。ヒースロー空港に着くとリン先生とサム先生が迎えてくれました。そこでは周りに日本人はいなく、聞こえてくる言語もすべて英語など外国語でした。

18日、ホストファミリーがホテルに迎えに来てくれてホームステイが始まりました。最初は互いに緊張していたので会話も進まず、時間だけが過ぎていきました。アーサーの家に着いた時は少し話すようになっていました。家の説明をアーサーに聞いている時、いつも学校で習う英語ではなく、難しい部分がありました。次の日の朝起きると、お父さんがご飯を用意してくれて、日本では食べたことのないものなど珍しいものが多かったです。家族はとにかく皆親切で、面白く、安心できる所でした。その日はロンドン観光の日で、僕はハリーポッターがとにかく好きだから楽しみでした。ロンドンはフォレストオブディーンとは違い、現代と歴史が混ざりこみ、移民が多く多文化な所でした。アーサーのお父さんの案内で、9と3/4番線に連れて行ってもらったり、ロンドン観光を楽しみました。本当に充実した一日で、アーサーともとても仲良くなり、たくさん話をしました。



月曜日は初めての学校訪問、ディーンマグナスクールは設備がとても充実していて、生徒一人一人が個性を発揮できていました。そこで沖縄で練習していたプレゼンテーションとエイサーを披露しました。その後はアーサーについていき授業を受けたのですが、日本にはない授業があったり驚きが多かったです。



残りの日もホストファミリーとご飯を作ったり、ハリーポッターを見たりしてとにかく楽しく過ごしました。みんな優しく温かい人でした。この派遣を通して、日本とは違う文化に触れて、世界の広さや、それぞれの国の良いところを発見でき、自分の視野が広がりました。言葉という大きな壁があり、苦労したりすることも多かったけど、それ以上に新しい発見や、学校で習うような型にはまった英語でない柔軟な英語に触れ、習得することも多かったです。僕は将来、国同士を結ぶ仕事

場である空港で働きたいと考えています。今回の経験はこれからの強みになるし、自分の新たな目標もできました。英語など言語を学べる高校に行って、そしてまたイギリスへ行き、アーサー達と再会した時には自分の力で話したいと思っています。この経験をするために協力してくれた周りの人達に対して感謝の気持ちでいっぱいです。

英国派遣を終えて

桑江中学校 3年 木村 暖乃



北谷中学校と桑江中学校の代表 8 人、引率教諭 2 人の 10 名で私たちは 9 日間、長いようで短かった英国派遣を体験できました。私は海外が初めてだったので、スピーチコンテストで賞を取った時からものすごくワクワクしていました。実際に行く！となった時はとても不安で緊張していましたが、8 人みんなで「楽しみだね」と話すと緊張もやわらいだし、その後もすごく楽しかったです。

イギリスに行く前の前泊では、ホストファミリーではなく英国派遣メンバーの仲が深められました。一つの部屋に集まってイギリスでやる出し物の練習をしたり、雑談したりなど、こんなに笑えることってあるんだ！と思うくらい楽しかったです。

いよいよ 13 時間のフライトが始まると、13 時間どうしようかな、耐えられるかな、と思いました。降りた後は無事に着いたからすごく眠くて、移動のバスでは寝てしまいました。イギリスに着いてからは時間がものすごく早く進んだし、日本との時差で不思議な感覚になりました。景色に驚いたり、言語に関してもすべて自分たちでやらなきゃと自信が持てました。

ホストファミリーにそれぞれ会った時も、事前に連絡を取っていたからか自然とわいわいできたし、お母さんや弟とも仲良しになりました。

学校では、さすが優秀な学校だなという感じでした。日本と同じような教科でも、教室が移動式だったり、理科だと物理・生物などで分かれていたのも印象的でした。みんなでやった美術では、作品をホストファミリーと一緒に作ったのが楽しかったです。その作品は今でも部屋に飾ってある思い出です！



他にも有名な場所（ビックベン、ロンドンブリッジ、バッキンガム宮殿など）を見たりしたロンドン観光、輝の誕生日だったのでお祝いで行ったアイススケート、高校・小学校訪問体験、1 日目のウェルカム BBQ など、多くの体験を楽しみ、学びました。自分だけでなく、ホストファミリー、先生方も楽しかったと言って嬉しくなりました。

私のホストファミリーはグッドフィールド家のフィービーという女の子でした。お母さんやお父さん、弟、おばあちゃんにも会えて嬉しかったし、一人一人とコミュニケーションが取れてよかったです。お別れの際にも「寂しい」と言ってくれたり、泣いてくれていたことがものすごく嬉しかったです。ホストファミリーからももらったお土産やプレゼントは一生の宝物にしたいと思いました。また、最終日にみんながお別れディナーをしている時、私とフィービーだけクリスマスイルミネーションを見に行っただけが一番の思い出になりました。

イギリスでは、日本では学べないことが学べた貴重な時間になりました。喜怒哀楽が激しく、いつも笑って楽しめました。今回、派遣を通して学んだことは、聞き取り伝える英語の力だけでなく、頑張ろうとする意志や、一種の友情が生まれたことです。ですが、それとともに自分の課題もを見つけることができました。「自分が恥ずかしい」と思ったこと、英語力に関して足りない部分、これから新しいことに生かしたいと思いました。今後も英語を話せる会などに積極的に参加したいと思います。派遣交流ができた喜びと、関わってくれた大人や友達に感謝し、私が将来周りに影響力を与えられるような人になりたいです。8 人の仲間との絆、ホストファミリーともよい関係をこれからも繋げていきたいです。

令和5年度 北谷町英国派遣交流事業 引率者報告書

北谷町立北谷中学校
英語科教諭 町田宗之

1. はじめに

令和5年11月16日(木)から11月24日(金)の9日間、北谷町英国派遣交流事業の引率教諭として、英国での交流事業及びDene Magna School(以下、DMS)の視察研修に参加させて頂きました。コロナ禍において見合わされていた派遣事業が4年ぶりに再開となり、去った7月にはDMSの派遣団を本町へ受け入れ、各学校において交流するほか、ホームステイという形で各ホストファミリーに受け入れて頂き、交流を図ってまいりました。その交流を機に、生徒らの英国派遣参加を希望する熱も高まり、8月に派遣をかけて行われた第23回北谷町中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテストでは、英語でのレベルの高いスピーチや議論が繰り広げられ、その中からも派遣生徒の選出が行われました。

今回の派遣事業で派遣された生徒は、北谷中学校5名、桑江中学校3名、計8名(各校校長推薦2名、コンテスト上位者4名)で、桑江中学校の岸本亮子先生と共に引率させて頂きました。派遣期間を通して、それぞれの生徒がホストファミリーと英語を使って楽しそうにコミュニケーションを取る姿が見られました。

2. 英国派遣での体験

初日 11月16日(木) 東京前泊

13時に那覇空港に集合し、14:55の便で羽田空港へ移動しました。その後、羽田空港内で夕食を済ませ、シャトルバスで空港近くのJALシティホテルに移動し、宿泊しました。ホテルの部屋では、DMSで行う沖縄に関するプレゼンテーションの打ち合わせや最終調整を行いました。



2日目 11月17日(金) イギリスへ出発

2日目、いよいよイギリスに向けて出発でした。ロシアーウクライナ間の紛争の影響で、ロシア上空を飛行することができないため、北回り(ロシア-アラスカ間を飛行)でのフライトとなり、13時間半のフライトとなりました。ロンドン・ヒースロー空港に到着すると、DMS国際交流担当のリン(Ms. Lynne Addams)とサム先生(Mr. Sam Buckley)が出迎えてくれ、そのままRoss on Wyeという町にあるThe Ross on Wye Royalという初日のホテルまで送迎してもらいました。ホテルに着くと、DMS校長のスティーブ先生(Mr. Stephen Brady)をはじめ、昨年のDMSの国際交



流担当であるジェマ先生 (Ms. Gemma Meek) とポール先生 (Mr. Paul Manns) が出迎えてくれ、リン先生とサム先生とともにウェルカムディナーを楽しみました。

3日目 11月18日 (土) ホストファミリーと対面

3日目は、ホテルで朝食を頂いた後、生徒がお世話になるホームステイ先のホストファミリーと対面しました。土曜日なので、生徒たちは各ホストファミリーと終日お出かけし、街やスーパーに行ったり、バーベキューをしたり楽しんでいる様子でした。

引率の私と岸本先生は、午後から DMS の先生方にラグビーの試合観戦に連れて行ってもらい、本場のレベルの高い試合を楽しませて頂きました。



4日目 11月19日 (日) ロンドン観光

4日目は、ロンドンにおいて終日視察研修となりました。生徒は各ホストファミリーとロンドンを回り、充実した様子でした。

私たち引率教諭は、リン先生に加え、2018年度 DMS 国際交流担当の来沖されたリス先生にロンドンを案内して頂きました。バッキンガム宮殿やトラファルガー広場、ビッグベン時計台、ロンドンブリッジなどを案内してもらい、ロンドンの中心地の雰囲気を見ました。ロンドンを含めイギリスは日本と比べ物価が高く、特に食に関してはものすごくお金がかかる印象でした。



5日目 11月20日(月) DMS 登校、授業視察

5日目は、DMSの授業に参加させて頂きました。日本の学校生活との違いを挙げるといくつもありませんが、まず大きく違っていたのは、自分の教室が無く、授業は各教科の先生の教室にカバンを持って移動というスタイルでした。日本の大学のような感じで、生徒らは授業ごとに異なる教室を移動していました。DMSの1日を視察させて頂いた中で印象的だった点を項目ごとに分けて紹介していきます。

(1) フランス語の授業

様々な授業を視察させて頂いた中でも印象的だったのがフランス語の授業でした。同じく外国語を教える立場として拝見させて頂きましたが、授業中に生徒の外国語の発話を促す雰囲気作りや動機づけがありとても学びになりました。ウォームアップで行っていたスモールトークでも、教師が投げかける質問と同時に柔らかいサイコロを生徒に投げ、キャッチした生徒は質問に回答しながら教師にサイコロを投げ返していました。それぞれの生徒に発話が巡ってくるチャンスと緊張感を与えつつ、クラスの雰囲気を和やかにする活動は、授業の初めに行うものとして適しており、生徒も教師との会話を楽しんでいる様子でした。また、授業を通して、言語習得の基本である「音声での導入→文字の確認」の順番を徹底している様子も伺えました。



(2) スナックタイム・ランチタイムとカフェテリア

DMSでは、午前中に1時間の授業が3コマ、昼食後に2コマというタイムテーブルが基本とのことでした。また、2コマ目と3コマ目の休み時間は20分取られており、生徒はその間にカフェテリアなどでスナックやホットチョコレートをつまみ、3コマ目に向かっていました。小腹がすぐ時間に軽食を摂ることにより、より高い集中力で昼食前の授業に臨んでいる様子でした。

ランチタイムでも使うカフェテリアは、集会所を行う広めの教室に、椅子とテーブルを出し、昼食を摂っていました。料理はケータリングスタイルで、自分が好きなものを職員に伝え、よそってもらい、そのメニュー数に応じた金額を、指紋認証機能を使い記録していました。料金は月毎に使った分だけ保護者に請求される形をとっているとのことでした。好き嫌いや食べる量も人それぞれ異なるため、良いシステムだと感じました。



(3) ティーチングアシスタントの活用

Six Form(高校)に通う成績優秀な生徒を、教師を補助する「ティーチングアシスタント」として雇っており、教材準備や授業のスムーズな進行、配慮の必要な生徒へのサポートを行うなど、教師の負担を軽減させるうえ、質の高い教育活動に資するよう有効に活用されていた。

6日目 11月21日(火) Sixth Form(高校)、Drybrook(小学校)訪問

6日目は、DMSのSixth Form(高校)と、Drybrook(小学校)という系列校に訪問させて頂きました。

高校では、生徒自らで学ぶ教科を選択し、少人数で専門的な知識を得られる授業を行っているとのことでした。授業を視察させて頂くと、生徒の質も高く、自律(自立)している様子で、教師主導でなく生徒それぞれが主体的に学習に向かう姿勢が見られました。

小学校では、派遣生徒が沖縄や日本についてのプレゼンテーションを行い、小学生からの質問に答えたり、ダンスを披露してもらするなど、楽しい雰囲気の中で交流することができました。



7日目 11月22日(水) DMS 授業視察、グロスター大聖堂、フェアウェルディナー

7日目は、再度DMSの授業に参加させていただきました。スナックタイムの時には、DMSの家庭科の先生をはじめ、ティーチングアシスタントの先生方の手作りの、イギリスの伝統的なアフタヌーンティーやスイーツ、サンドイッチを頂きました。どれも美味しく、DMSの先生方の温かなホスピタリティに感激しました。

午後は、グロスター大聖堂の見学に行きました。石造りの立派な構えと細部にまでこだわった彫刻や色ガラスの使い方など、英知と労力が結集されていると感じました。また、グロスター大聖堂内の、映画『ハリーポッター』の撮影で使われた廊下なども拝見し、生徒は大興奮している様子でした。

夕方には、フェアウェルディナー(お別れディナー)を開いてもらい、ホストファミリーやDMSの先生方との最後の夕食を楽しみました。



最終日 11月23日(木) ホストファミリーとお別れ、オックスフォード観光

8日目朝、DMSにて各ホストファミリーとお別れをしました。7日間お世話になった生徒らの目には、別れを惜しむ涙が見られ、メールで連絡を取り合う約束や来年の夏に再会する約束を交わす様子が見られました。

ホストファミリーとお別れした後、私たちはバスに乗りオックスフォードの街へ移動し、リン先生とサム先生にオックスフォードの街を案内してもらいました。サム先生は、オックスフォード大学卒ということもあり、この街に詳しく、色々な場所を案内してくれました。イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education」の選出する「The 世界大学ランキング」において、8年連続で第一位¹を獲得したオックスフォード大学の施設を見学して回りました。

その後、ロンドン・ヒースロー空港に移動し、リン先生とサム先生とお別れしました。空港でお土産を買ったり、夕食を食べたりして、夕方17時の便で東京羽田に移動し、日本時間11月24日午後23時ごろ、那覇空港に到着しました。



3. おわりに

まず、この度の英国派遣において、全員病気や怪我がなく無事に全日程を終えられたことにとても安心しています。そのなかで、派遣された生徒達は英国滞在中、自身の英語を使おうと積極的にコミュニケーションを取る姿や、英国の文化を理解するために英語での説明を理解しようと努力する姿が見られ、とても感心しました。この年代でそういった環境に身を置く経験は、とても価値のあることだと思います。中学生のうちでこのような素晴らしい経験をできたことは、今後の彼らの成長を大きく後押ししてくれるのではないかと感じました。また、私自身も一教師として、DMSの教育活動を視察させて頂き、様々な気づきを得ることができました。日本の教育体系においても実践できることは実践していくなど、今回の経験を今後の教育活動に活かしていきたいと思います。

追伸

今回の英国派遣事業において、現地との調整などのコーディネートを行っていただきました、北谷町学校教育課の河上様、嘉陽田様をはじめ、現地での活動を支えてくれたDMSの先生方に感謝致します。

¹ 「The 世界大学ランキング 2017」から「The 世界大学ランキング 2024」まで連続して1位に選出。

令和5年度 英国派遣帰国報告会書

北谷町立 桑江中学校
教諭 岸本 亮子

はじめに

11月16日（木）～24日（金）の9日間、北谷町英国派遣交流事業の引率者として、大変有意義な体験をさせていただきました。北谷中学校の町田宗之先生と協力して、生徒8名の引率だけでなく、自分自身のスキルアップのための視察研修として初めて英国を訪問しました。

その様子、成果を報告いたします。

生徒引率及び視察研修から学んだこと

今回の英国派遣には、目的が3つあり、私達10名（生徒及び引率者）は、この意義・目的を意識しながら9日間様々な体験をしました。

長時間のフライト、滞在先の街並みや歴史的遺産見学、観光を通して

「英国派遣交流事業」の目的の1つ目に「北谷町の歴史と伝統を尊重し、次代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習慣を見聞し、本町の発展に寄与する。」とあります。

羽田からヒースロー空港までの飛行時間は、約13時間・・・「パレスチナ情勢関連を踏まえ、乗客の皆様の安全を最優先するため飛行ルートの一部変更します。飛行時間超過のご理解ご協力をお願いします。」というパイロットのアナウンスがありました。イギリスへ向かう日から、「日頃から世界の動きを知ることは大切」だと考える機会となりました。このように、行く先々で「観たもの」「食べたもの」「聞いたこと」「感じたこと」全てが新鮮で興味深いものでした。私達は、異文化（沖縄とはまるで違う風景や文化や習慣！！）を肌で感じ、改めて自国の良さに気づかされました。

ディーン・マグナ・スクールでの授業参観や交流、小学校・高校訪問を通して

目的の2つ目は「英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取り組みに資する。」です。

どの国でも「目を輝かせ学習する子ども」は、素敵だなと感動の連続でした。短期間の授業参観、交流でしたので細かい点は把握していませんが、基本的には私達が行っている教育（目標、指導方法、指導形態）と大きな違いはないと感じました。そこには、「楽しそうに授業をする先生方」、「自分で考え学ぼうとする生徒達」がいました。DMSの先生方の長年の実践の積み重ね、保護者の理解協力、学校と家庭の役割分担ができてこそその「実態」だと感じました。

主に「学んだこと」を6つお伝えします。①③④⑥は生徒の皆さんも実感したことでしょう。

- ① 授業規律の徹底：ほとんどの教室に時計がない、DMSの生徒は、短い予鈴を聞き各教室へ静かに移動、本鈴で授業開始、私語が少ない、顔をあげ教師の話聞く。
- ② 授業のめあて：「WALT」：We Are Learning To～「私たちは、～を学びます」と表現、また「WILF」：What I'm Looking For～「私たちが求めるもの」等。
- ③ 生徒同士の学び合い：60分授業の中、必要に応じて動きのある授業形態：コの字型、

円卓、クラシックを聞きながら、壁に貼られたタスクを見て立ったまま学習 等。

- ④ 掲示物: 学習規律を促す掲示、学ぶ意義が分かる掲示、わくわくするような掲示物 等。
- ⑤ 先生方による情報交換: 放課後、生徒の情報交換、共有した内容の蓄積ファイリング 等。
- ⑥ その他: 異なるカリキュラム、施設 (各教科棟・先生毎の教室・運動施設規模) の違い、生徒は黒ボールペンでノートを取るなので間違いが少ない、2時間目終了後のスナックタイム (15分程度) でリフレッシュ 等。

DMS の先生方、ホストファミリー、仲間との触れ合いを通して (生徒の反応や変容)

目的の3つ目は「英国の中等学校生徒との交流を深めることにより、将来の希望と抱負を持ち、自己を高める機会とする。」です。

今回派遣されたみなさんは「北谷町中学生スピーチ・カンバーセッションコンテスト」において優秀な成績を修めた生徒と学校推薦を受けた生徒と、とても優秀でやる気のある元気な生徒達でした。ホストファミリーとお別れの朝、皆、それぞれの形で分かれを惜しんでいましたね。(前日から泣いていたのか、すでに目を腫らした生徒もいました！それはてるさん！) その姿は、別れを惜しむ涙でもあり、また「戸惑いや葛藤」、「ちいさなハプニング」を自分の力で乗り越えた笑顔の涙にも見えました。「みんなの吸収力や可能性」の凄さを感じました。

ホストファミリーと、涙あり笑顔ありのお別れをした後のヒースロー空港へ向かうバスの中・・・寂しい空気が漂っていましたが、しばらくすると子ども達の顔は晴れ晴れし、こんな会話が聞こえてきました。「北谷町からたくさんのお金を出してもらって感謝だね！北谷町のためにもこれから頑張ろうねっ！」と聞こえてきたんです！私は嬉しくて嬉しくて、すぐ担当の河上さんにメールで知らせました。事前学習会から英国派遣そして事後学習会を通して、子ども達は、それぞれ自己を高めることができました。以上のことから、皆さんは、「英国派遣交流」の目的をしっかりと達成することができました。

教師としてのこれから

今回の引率及び視察研修は、私にとっても大変貴重なものとなりました。自分自身がこれまで受けてきた教育や、教師として現在実践していることを客観的に振り返り、見つめなおすことができたからです。異国の地でも教育の本質は同じだという気づきがあった一方、その方針や方法は様々で、関わる大人の力は大きいと改めて感じました。今後に活かしていきたいです。

終わりに

11月24日(金)夜、遅い時間でしたが、那覇空港で「おかえり♪」と出迎えてくれた保護者様とそれを温かく見守る北谷町教育委員会の皆様の姿を見て、「大きなトラブルや体調不良者もなく、全日程を終えることができて良かった！」とほっと一安心でした。これも保護者の皆様、北谷町教育委員会の皆様、現地で大変お世話になった DMS の校長先生はじめリン先生やサム先生、もちろんホストファミリー、さらには桑江中の校長先生、北谷中の校長先生の理解や協力と、最後に渡久地町長や原田教育長など、関わった全ての方に感謝いたします。以上で報告を終わります。

英国派遣出発式

1108

北谷町の代表としてしっかり学んできます！



1116



いざイギリスへ出発！
前泊の羽田でプレゼンの練習♪

Welcome to the UK!!



1117

イギリス到着！ホテルで先生達とディナー♪



1118

ホストファミリーデー



1119

LONDON TRIP





DENE MAGNA SCHOOL VISIT



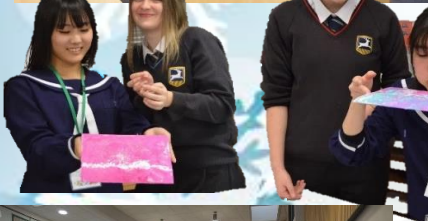
1120



沖縄交流の掲示



アートの授業に参加しました。
どんな作品になるかな？



ジェマ先生が高校・
小学校を案内してくれました



DMS SIX FORM

1121

DRYBROOK PRIMARY SCHOOL



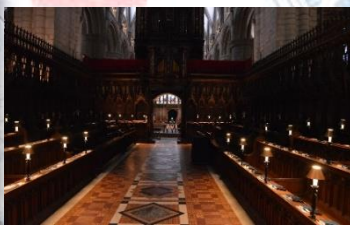
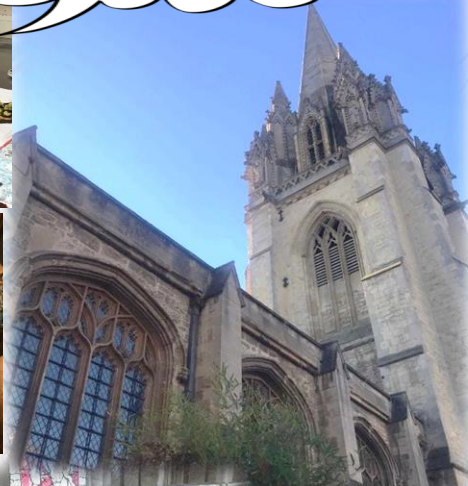
ディーンの森・チェプスター城



夜はホストファミリーと
スケートへ♪

1122

本場のアフタヌーンティー♪
の後はグロスター大聖堂へ



1123

お別れの日...
また会いに来るね!



1124

無事帰国しました!



1222

帰国報告会

町長・教育長の前で成果報告



ラジオ収録も行いました!





YUA & ELLA WILKINSON FAMILY



Kaisei & Adam Abdalla Family



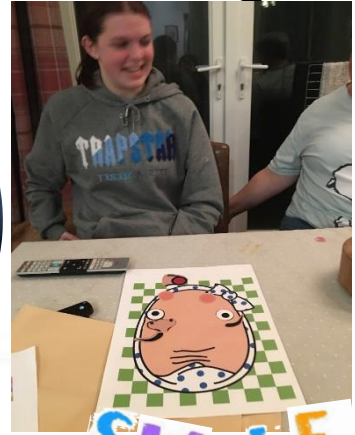
Nonno & Phoebe Goodfield Family



Takuto & Arthur Ross-Collins Family



Natsune & Kat Scruton Family



Kokono & Georgia Tuck Family



LILO & TANA HUGHES FAMILY



Teru & ELLA Wilkinson Family



2023年度 北谷町中学生英語スピーチ・ カンバセーションコンテストの様子

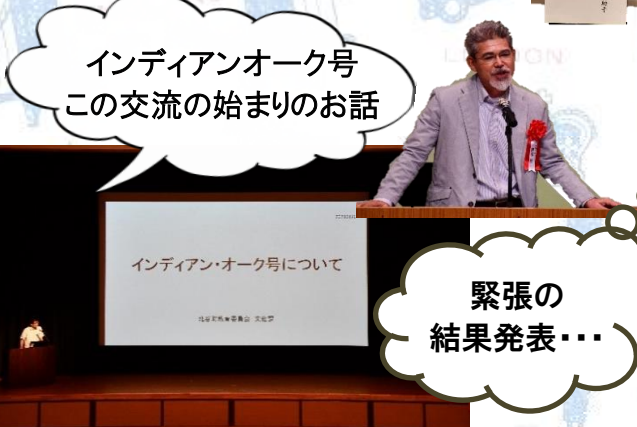


スピーチの部



This year's topic is...
「School Life!」

カンバセーションの部



インディアンオーク号
この交流の始まりのお話

緊張の
結果発表...



表彰式



派遣決定おめでとうございます☆



2023年度 英国訪問団受入の様子



Welcome!!

0701



0702

美ら海水族館



0703

町長表敬



インディアンオーク号について



うちな一家視察



0704

桑江中



北谷中

0705



マリンスポーツ

0706

北谷幼・小



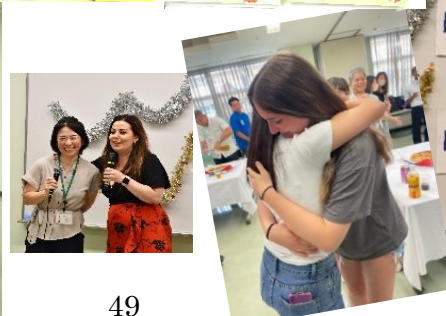
お茶会



ちーたん 今年も大人気!



一生忘れられない思い出を ありがとう!



2023 ディーン・マグナ・スクール受入スケジュール

- 訪問者: 引率者2名、中学生9名(男4名・女5名)
- 訪問期間: 2023/7/1~7/7 6泊7日
- 宿泊: ザ・ビーチタワー沖縄、ホームステイ



日付		時間	場所	内容	宿泊	食事	
7/1	土	12:40	那覇空港	那覇空港到着 JL909便	引率:ホテル 生徒:ホテル	生徒	引率
		14:00	ホテル	ホストファミリー顔合わせ(ビーチタワーホテル)		(夜)	(夜)
		15:00		ホテルチェックイン			
7/2	日	終日	北部	ガイド付き県内視察バスツアー@海洋博公園 美ら海水族館 各ホームステイ先へ	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	(朝) 昼 ★	(朝) 昼 夜
7/3	月	9:30	北谷	町長表敬訪問(応接室にて・部課長会后)	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★	(朝)
		10:00		町内視察(展示室)		昼	昼
		12:00		教育長と昼食懇談会			
		13:30		町内視察(うちな一家、インディアンオーク号等)			
		17:00		アメリカンビレッジ散策後、各ホームステイ先へ		★	(夜)
7/4	火	8:30	北谷	桑江中学校訪問 給食 部活動見学(終日桑江中)	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★ 給食	(朝) 給食
		17:30		各ホームステイ先へ		★	夜
7/5	水	8:30	北谷	北谷中学校訪問 給食(清掃終了まで)	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★ 給食	(朝) 給食
		14:00		マリンスポーツ体験 海人の会 @アラハビーチ		★	(夜)
		17:00		体験後解散 各ホームステイ先へ			
7/6	木	8:30	北谷	北谷幼稚園、小学校訪問(給食まで)	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★	(朝)
		13:00		給食後、ニライセンターへ		給食	給食
		13:30		和室にて着物体験			
		14:30		お茶会(ニライセンター和室)			
		18:00		送迎会(ニライセンター講座室)		送別会	送別会
7/7	金	9:00		ホテル集合	/	★	(朝)
		AM	南部	沖縄わーるど 鍾乳洞・各種体験(各自)		昼	昼
		PM	那覇	国際通り			
		17:00	那覇空港	那覇空港発 19:35 JL920便		-	-



また来年
待ってるたん!